

令和5年新春

地藏様とあじさいの寺

光照寺だより

修行の第一歩は？「まず食器を洗え」

趙州洗鉢の話より

「僧、趙州に問う。学人乍入叢林、乞う師指示せよ。州云く、喫粥了や也た未だしや。僧云く、喫し了る。州云く、鉢盂を洗い去れ。」(従容録第三十九則 趙州洗鉢)

従容録というのは中国の古い仏教書で特に曹洞宗門が重んじる公案集です。その中の三十九則として趙州禅師の洗鉢のお話を紹介します。

ある人が趙州和尚に問いました。「私は出家して禅の修行道場へ入りました。お師匠様、どう修行したらよいか教えてください。」

趙州が答えます。「あなたは朝食のお粥を食べ終わりましたか。」

僧が答えて「食べ終わりました。」

趙州は言います。「では、まず飯椀を洗いなさい。」と。

食事を終えたら食器を洗いなさい、とはまったく普通の当たり前のことです。趙州禅師はこれが禅の修行の第一歩だと示しておられます。つまり挨拶、洗面、食事などこまごまとした日常のことを心をこめてやることだと言うのです。着物を着たり、ご飯を食べたりするのは日常の生活の基本です。この基本にいささかの作為を加えずに、その時の状況そのままに生きることが禅の生活様式なのです。趙州和尚の示す修行の道を歩めない私ども凡人は、生活に作為を加えて日常を曲げてしまっています。平時であるのに絶えず生活に波乱を生じさせています。虚心坦懐にして物事に動じない生活を送るには、まず無心に洗鉢することから始めよということなのですね。

この本則に宏智という禅師は短評を加えています。「(中略)叢林の客、且くいえ、其の間に悟有りや無しや。)洗鉢すると悟れるのか、否、洗鉢する行為そのものが仏の行為なのだ。」

(参考：御誕生寺だより 40号「西堂老師挨拶」)

年頭の挨拶に代えて。方丈

「あじさい」で心安らぐひと時を



本堂から大門を望む



裏山は青いアジサイで満開



挿し芽教室

昨年は、地元紙三条新聞の他に新潟日報にも掲載していただきました。その影響もあり多くの方においでいただくようになりました。「あじさいのお寺」が広く定着しつつあるようで嬉しく感じます。「また来ちゃいました。3回目です。」という方や撮った写真をわざわざ届けに来てくれた方もありました。YouTubeに上げてくださった方も。皆さんの声を励みにまた今年もきれいな花を咲かせようと頑張っています。」



多くの方の来山に感謝

ご家庭に不要のローソク・線香がありましたら、お寺に寄付していただだけませんか。四月の地藏講に使わせていただきます。